



# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

№ . 290

\*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

(問) 近所を散歩中、その地域出身の戦死した出征兵士を偲ぶ忠魂碑というのを見つけた。ほかにも兵士や戦争被害者を悼む目的で建立された碑や塔があるようだが、東京都内にどのようなものがあるか知りたい。

(答) 図書室の検索端末にある同義語検索を活用すると、検索に使用するキーワードに同義語が登録されている場合、書誌情報にキーワードとその同義語を含む資料を検索することができます。同義語検索を使用した場合としない場合の検索結果を比較してみます。

図書 ⇒  ⇒ キーワード  ⇒ 190件ヒット  
図書 ⇒  ⇒ キーワード  ⇒ 同義語を含む  
⇒ 322件ヒット



※検索システムで忠魂碑の同義語として登録されている忠霊塔と表忠塔を書誌情報に含む図書もヒットします。

都内にある忠魂碑や忠霊塔などについて知りたいとのことなので、上の同義語検索結果からさらに絞り込んでみましょう。

図書 ⇒  ⇒ キーワード  ⇒ 同義語を含む ⇒  
 ⇒ キーワード  ⇒ 12件ヒット  
『東京都忠魂碑等建立調査集』(281/Y64 閉架一般 000036256)

図書を読んでも忠魂碑のほか慰霊碑や顕彰碑などの名称が見られます。これらをキーワードに他にも図書がないか検索してみましょう。

図書 ⇒  ⇒ キーワード  ⇒ 508件ヒット ⇒  
 ⇒ キーワード  ⇒ 24件ヒット  
『全国の戦災の追悼施設・追悼式 平成26年度 追補版』  
(210.75/N69/2014 閉架一般 000058634)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

# 「蛍の光」 明治から昭和



お店の閉店を知らせる音楽、といわれて多くの方が思い浮かべるのは「蛍の光」でしょうか。実はその曲、「蛍の光」ではなく「別れのワルツ」といいます。どちらも原曲が「Auld Lang Syne(オールド・ラング・サイン)」というスコットランド民謡なので、旋律が一緒です。「Auld Lang Syne」と「蛍の光」が四拍子のところ、「別れのワルツ」は三拍子にアレンジされ、日本では昭和 24 年(1949)に公開された「哀愁」という映画に使われていました。5 階映像・音響室には「蛍の光」「別れのワルツ」両方収録されているので、聞き比べができます。

「Auld Lang Syne」が日本に伝わってきたのは明治時代。稲垣千頰が歌詞をつけ、当初は「蛍」という名前で明治 14 年(1881)発行の教科書『小学唱歌集』に掲載されました。唱歌とは、明治時代から昭和 16 年(1941)まで行われていた音楽授業の名称です。つまり、音楽の授業のために用意された曲だったのですね。

『小学唱歌集』に掲載された時、歌詞は 4 番までありました。

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| 1 ほたるのひかり。まどのゆき。書よむつき日。かさねつつ。  | 3 筑紫のきわみ。陸の奥。うみやまとおく。へだつとも。いつしか年も。すぎのとを。あけてぞけさは。わかれゆく。    |
| 2 とまるもゆくも。かぎりとして。かたみにおもうちよろずの。 | 4 千島のおくも。おきなわも。やしまのうちの。まもりなり。こころのはしを。ひとことに。さきくとばかり。うたうなり。 |

この歌詞は当時の領土について触れているため、特に 4 番においてポーツマス講和条約で南樺太が領土となった明治 39 年(1906)ごろから、以下の歌詞も使われるようになったようです。

4 台湾の果ても樺太も、やしまのうちのまもりなり。  
いたらん国にいさおしく、つとめよ、わがせ、恙なく。

明治 43 年(1910)、日本人作詞・作曲で揃えた教科書『文部省唱歌』が発行されて以降戦後まで、「蛍の光」は教科書に掲載されませんでした。卒業式の定番曲となっていました。戦時中になると、歌詞の解釈が議論となり 3 番までの掲載となったり、そもそも旋律がスコットランド民謡、つまりイギリスの曲だということで敵性音楽として扱われ、卒業式でも歌われなくなりました。

戦後、昭和 21 年(1946)発行の音楽教科書に再び掲載されましたが、3・4 番の歌詞は載っていません。しかしこの年の卒業式から再び歌われるようになったことが、5 階映像・音響室で見られるニュース映画『新日本ニュース第 12 号』で取り上げられています。

このように、戦前と戦後で曲の扱いが変わる、ということが他にもありました。書架番号 12~13、請求記号 767 付近の本に詳しいので、読んでみてくださいね。

ちなみに閉店の曲つながりの余談ですが、昭和館では閉館間際になるとドヴォルザーク作曲「交響曲第 9 番」、いわゆる「新世界より」の第 2 楽章が流れます。日本では「家路」としても知られている曲です。

歌詞は『唱歌大事典』から引用し、現代仮名づかいに改め、一部漢字表記にしました。

## 【参考文献】

『唱歌「蛍の光」と帝国日本』大日方純夫 著 吉川弘文館 2022 767/O14 閉架一般 000068951

『唱歌大事典』江崎公子 編者 東京堂出版 2017 R767/E95 開架参考 000063019

『日本国語大辞典 第5巻』小学館 1980 813/N71/5 開架参考 000032638

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 290

2025 年 7 月 20 日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1